

創刊
5
周年

京都経済の5年間

「週刊京都経済(日刊京都経済改題)」は12月1日、創刊から5周年を迎えた。京都経済新聞はこの5年、京都地域に根差す「人の経済」という潮流にスポットを当て、ナマの経済情報を発掘してきた。5年間に多くの事件が起こり、多くのニュースが飛び交った。京都のまちの佇(たたず)まいは、変った。この間、不況を突破できない日本経済に引きずられ、経営が破たんする京都企業も少なくなかった。一方、京都に芽吹いたベンチャービジネスは、緩やかだが確実に育っている。世紀末と新世紀の幕開けという節目を抱えたこの5年に京都経済で何が起こったのか。過去5年を振り返る。

- [5月] ●四條繁栄会商店街など京都市内の主要10商店街・2業種組合が、デビットカード取り扱い開始
- [7月] ●米証券大手メリルリンチが京都・四條に進出
- [9月] ●婦人服地卸のロンシャンが、京証上場企業では28年ぶり会社更生法を申請
- [10月] ●独立系のベンチャーキャピタル「フューチャーベンチャーキャピタル」が設立
●大学研究者の技術を産業界に橋渡しする目的で関西TLO設立。
- [12月] ●京都の美的資源をデータベースに蓄積する「デジタルアーカイブ研究センター」設立
●京セラ・稲盛和夫氏とワコール・故塚本幸一氏が主宰していた会員制クラブ「イレブン」が25年間の歴史に幕

1998

東京にするか、京都にするか フューチャーベンチャーキャピタル 川分陽二社長

「東京にしようか京都にしようか迷った。しかし、150社にのぼるといわれる既存のVCの中で違いを出していくには、京都に拠点を置くことが必要だと考えた。京都では『皆と同じでなくていい』という気質の企業が伸びています。京都の風土がしからしめるものだと思います。現在は、これまでに伸びた“京都ベンチャー”の周辺企業が次の飛躍期に入っている。」
【1998年11月掲載】



FVCの投資で事業本格化 ジェイデータ 佐々木耕司社長

インターネットに簡単に接続できるシステムを開発するベンチャー企業、ジェイデータは、京都に本拠をおく唯一の独立系VCであるフューチャーベンチャーキャピタルからこのほど投資を受けた。2001年3月期に東証新市場に株式を上場する方針で、ホテル向け有料インターネット端末などの事業展開を本格化することになっている。
【1999年9月掲載】

1999

- [7月] ●京都市が「地域プラットフォーム事業」認定を受けて代表者会議開催した。ベンチャー支援団体が顔合わせ
- [8月] ●インターネット放送局のKNNが、日本の「コンピューター2000年問題(Y2K)」をネット中継
- [9月] ●インターネット分野に「流通」ベンチャーが登場。ジェイデータが、テレビをネット端末にするシステムの普及を目指す。
- [11月] ●京都市の外郭団体が運営する京都アイネットの会員数が
- [12月] 35000人突破した
●大阪府警が日栄本社を捜索
●日本電池がハイブリッドカー用電池を開発

- [1月] ●京都みやこ信金と南京都信金が破たん申請
- [4月] ●大学コンソーシアム京都に府内の全49大学が加盟
●宝酒造がゲノムビジネスに本格進出。三重に遺伝子解析センター開設へ
- [5月] ●呉服卸大手の丸勝が自己破産。負債額は約110億円
- [7月] ●商工ローン大手の日栄に業務停止処分
- [8月] ●和装卸大手のウライ、店頭市場に株式公開
- [9月] ●メールマガジン配信大手の「まぐまぐ」の関連会社、まぐクリックがナスダック・ジャパンに株式上場
- [10月] ●呉服総合卸の荒庄(東京)と関連会社の荒庄鳴河(名古屋)が倒産 負債額は計370億円
- [11月] ●国際情報通信技術基礎研究所(ATR)が人間型ロボットを商品化を決定
●韓国ITベンチャー来洛。「韓日ベンチャーフォーラム2000」を開催

2000



プロデュース業に転換 ウライ 裏井紳介社長

「8年前に公開準備を本格的に始めたのですが、社内の洗脳が大変だった。伝票と商品の動きを合わせるということについてです。社内の意識を改革した後は、得意先や取引先との関係の改革でした。」
「もう一つは『戦略』です。きもの産業の苦境は消費者との間の距離が遠くなってしまったことにあると考え、キャラクターを活用したブランド戦略を打ち出しました。また、メーカーと小売りに在庫リスクを負わせない方針を打ち出し、問屋の幅を広げる戦略も重要でした。」
【2000年9月掲載】



人の信用を担保に融資する 近畿産業信用組合 長谷川昌三理事長

「実は、社長個人で連帯保証をしたり、土地・家屋を担保に入れて、融資を実行するというやり方は、私達(信組・信金マン)が創り出してきたんですよ。昔は、物的な担保がなかったら融資ができなかった。人の信用を担保にするための知恵だったんです。」
「これからの私たちの仕事は、こまめに一般の人からの資金を集めて、中小企業零細企業に融資していくことでしょう。零細な店や会社でまじめに日々の経営を切り盛りしてるところはたくさんあります。そういうところへの融資が必要ですね。」
【2001年6月掲載】

2001

- [1月] ●京都中央信用金庫が、京都みやこ信金と南京都信金から事業譲渡を受け、日本最大の信金になった
- [2月] ●京都証券取引所が閉鎖
- [4月] ●京都市がベンチャー支援機関を整理統合し、「中小企業支援センター」を設置
- [5月] ●京都シティ信用組合が、大阪商銀の事業譲渡を受け「近畿産業信用組合」として新スタート
●半導体製造装置研究開発のサムコインターナショナル研究所、ジャスダックに上場
- [8月] ●京都のベンチャー起業家の助言者、清水輝久さん亡くなる
- [9月] ●米同時テロ発生、京都の起業家も懸念
●ネットワークコンテンツ配信技術大手のフェイス、ジャスダックに上場
- [10月] ●ベンチャーキャピタル会社のフューチャーベンチャーキャピタル、ナスダックジャパンに上場
●京都市が財政非常事態宣言
- [12月] ●デジタルアーカイブに関するソフトウェア販売のセラータム、ナスダックジャパンに上場

- [1月] ●無線LANの公衆接続サービス実験「みあこネットプロジェクト」開始
●アパレル中堅のイタリヤードが自己破産
- [4月] ●産業用照明器具メーカーの星和電機、青色LEDに新規参入
- [5月] ●自転車ビジネス参入相次ぐ。サイクリングツアー事業の京都サイクリング・ツアー・プロジェクト、自転車タクシーのヴェロタクシー、自転車宅配便のロスタイムなど
- [6月] ●オフィス用品通販のカスタネット、文具リサイクルで海外支援 3ヶ月で1万点回収
- [7月] ●京産大、実験経済学の実験室を開設 国費などから総額3億円を投入
- [10月] ●島津製作所の田中耕一氏、ノーベル化学賞受賞
- [11月] ●「アトムボーイ」のフーズネットが経営破たん。民事再生法の申請へ

2002



田中氏ノーベル化学賞受賞

島津製作所に勤めるエンジニア田中耕一さん(43)が世界で最高の栄誉とされるノーベル化学賞を受賞した。田中さんは、研究所の主任という肩書きがつく「普通のサラリーマン」。社内でも目立つことはなかったという。反面、自分自身を「変人と呼ばれる実験好きの仕事人」と話す。
写真は朝報から一夜明け、笑顔でインタビューに答える田中耕一さん(2002年10月10日、京都市中京区の島津製作所本社前で=人羅秀二撮影)。
【2002年10月掲載】